

モダニズム精神が息づく、  
ダブリンの最新建築案内。

「ケルトの虎」と称されるほど、ここ10年余りで、経済的な大発展を見せたアイルランド。それを象徴するのが下クラシンド地域の再開発だ。田舎地区を経済と文化の新センターとする一方、周辺に暮らす庶民の居住地域も活性化しようといつ大規模な計画だ。その一環でこのほど落成したのが、この「ショーン・オケイシー・コミニティセンター」会議室である。設計はアイルランドを代表する建築オフィス、オドネル＆トメイ。スタッフのローラに答えてもらおう。

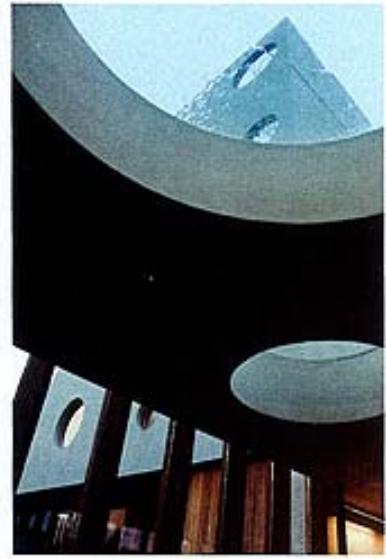
「お年寄りのためのディケアセンターと、保育所、シアター、ジムなどの設備を持つにまとめた地域住民のための施設です。子供とお年寄りの自然な交流を図るため、館内の各施設は中庭を仕切りにする程度で、分割しないデザインになっています。」

ローコストながらディテールまで丁寧なザイク。地中熱を利用した空調システムなど最新のテクノロジーを採用し、庭には自国产の植物だけを植えるなどエコロジー面にも配慮してある。採光のために外壁と屋根にくり抜かれた丸い窓は、デザイン的なアクセントにもなっている。機能とデザインを融合させた作品からは、「建築は人々の生活を向上させるためのもの」というモダニズムの精神が伝わってくる。「ダブリンにはモダニズムの巨匠、ルイ・カーンの影響を受けている建築家が多いんです」。実際、ダブリンには優れたモダン建築が多い。モダニズムの伝統がここには脈々と受け継がれている。

## 現代建築にも注目したい、 アイルランドの現在。



分譲者階級が暮らす住宅地に完成したコミュニティセンター。  
地域を活性化するための機能が集約されている。



機能とデザインが融合した、モダニズム的な秀作。

**Sean O'Casey  
Community Centre**  
ショーン・オケイシー  
コミュニティセンター

テンブルバーの「写真ギャラリー」など、コンクリート構造の優れた建築で受賞も多いオドネル&トーメイの設計。ダブリンの労働者階級を支援した劇作家、ショーン・オケイシーにちなんで命名された庶民のためのコミュニティセンターだ。お年寄りのデイケア施設、保育園のほか、シアターとスポーツ施設などの複合施設になっている。中庭を効果的に使った開放感のあるデザイン。2月ごろにオープンの予定。

●St. Mary's Road, East Wall, Dublin 3

